日本農研報告(東京、2020年10月6日)

米消費の減少と中食化の世代別分析
ー公表の食料消費統計に依拠してー

青柳　斉

(一社)農業開発研修センター・客員研究員
福島大学客員教授、新潟大学名誉教授

＜報告の構成＞

Ⅰ　米消費の減少要因と世代間の特徴
　ー主に「国民健康・栄養調査」からー

Ⅱ　米消費の中食化と世代間の特徴
　ー「家計調査」(二人以上世帯)からー

＜はじめに＞

◎米の消費問題への関心、研究のきっかけ

☆稲作経営、集落生産組織、米の産地間競争（産地ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ）

＊拙著『集落生産組織の展開形態と人材形成』農政調査委員会、1997年

＊＊伊藤喜雄編著『米産業の競争構造』農山漁村文化協会、1998年

☆中国の米の産地間競争と流通・消費構造の変化

…米・穀物の生産及び主食的消費の地域的多様性

＊青柳編著『中国コメ産業の構造と変化 』昭和堂、2012年

☆米の消費研究が少ない…「米の消費はなぜ減り続けているのか？」

◎関連の既発表文献

[1]拙稿「米消費の中食化と業務用米の需要動向」『農業と経済』第84巻第12号、2018年12月、68～77頁

[2]拙稿「米消費の減少要因と世代別消費の特徴」同上、第85巻第9号、2019年10月、100～111頁

[3]拙稿「米消費の中食化傾向と世代別の特徴」同上、第85巻第11号、2019年11月、73 ～82頁

[4]拙稿「単身世帯における米消費の動向と特徴」『地域農業と農協』第49巻3号・50巻1号合併号、2020年4月、12～20頁

Ⅰ　米消費の減少要因と世代間の特徴
－2000年以降の動向－

1．問題意識

◎主食用米の国内消費量は、減少傾向が長期に続いている

…「供給純食料」で 1963年以後ほぼ一貫して減少傾向

◎70年代半ばまでの米消費減少の要因

・政策的影響論…「ｱﾒﾘｶ小麦戦略」、「栄養改善運動」

＊鈴木[5]、藤原[6]←伊藤[8]の批判

・所得向上による食料消費の多様化(時子山他[4])

◎70年代後半から農水省・系統農協等の米消費拡大運動

…76年米飯給食の導入、80年農政審「日本型食生活の見直し」、
83年「食生活ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」　→政策的効果？

◎米消費の減少は2000年代に入っても止まず、その要因は？

・単身世帯や共稼ぎ世帯(「食の簡便化」志向)の増大(草苅[7])

…外食・中食も含む米消費量全体の減少を説明できず

・高米価論

＊厚生労働省「国民健康・栄養調査」の「食品摂取量」に依拠して

☆「国民健康・栄養調査」の概要

調査時期10～11月、調査世帯数：約1万世帯

調査票…身体状況、栄養摂取状況、生活習慣

対象者年齢…11月1日現在

☆調査内容(栄養摂取状況)

…世帯状況、食事状況、食物摂取状況、1日の身体活動量

☆食事状況…家庭食・調理済み食・外食・給食・その他

☆食物摂取状況…料理名、食品名、使用量、廃棄量

＊摂取量g、摂取熱量kcal　**年齢階級別、性別

☆調査日…日曜日及び祝祭日を除く任意の1日

→統計数値の年次変動の大きさ！

→「平日」の問題(外食・中食の捕捉が不十分)

２．米食の減少と食料消費構造の変化

◎国内米消費の減少率と規定要因

…「供給純食料」(食料需給表)から

国内米供給純食料の増加率(a)、人口増加率(b)、

1人当たり供給純食料の増加率(c)

「a=b＋c＋b･c」 1960年以降･5年置き動向 →図Ⅰ-1

◎米の供給純食料の増加率(a)

Ⅰ:60年代後半△11.0%、70年代後半△6.5%(大幅な減少)

人口増加率5%以上＋1人当たり減少率△8%～△16%

Ⅱ:80年代前半～10年代前半(△1.3～△4.9%)(小幅な減少)

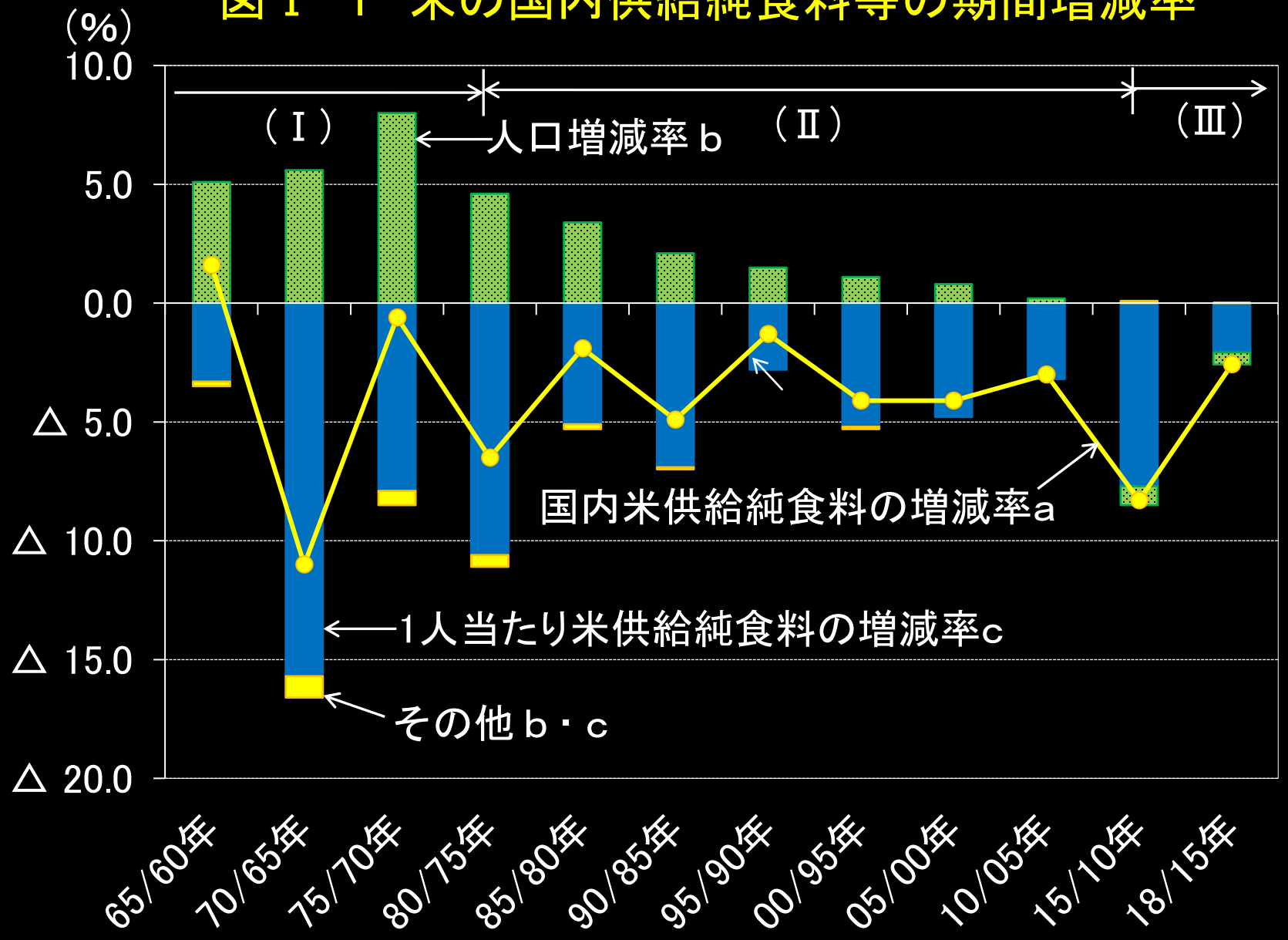
人口増加率が逓減、1人当たり減少率が低下

Ⅲ:2010年代後半△8.3%(60年代後半に次ぐ高さ)

国内人口が減少へ、1人当たり減少率△7.7%(再び上昇)

☆米消費と他品目との競合関係？ →「食品摂取熱量」の検討へ

図Ⅰ-1　米の国内供給純食料等の期間増減率



注)「食料需給表」より作成。

◎「食品群別摂取熱量」（国民健康・栄養調査）の動向

1人1日当たり食品摂取熱量の推移　→表Ⅰ-1

＊01年に分類区分や計測方法に変更→00年以前と連続せず

☆2010年までは「小食化」…摂取熱量の減少

00／80年△6.5%、10／01年△5.4%　→「小食化」の傾向

18／10年2.8%(微増へ)

☆摂取熱量の増減要因…各品目の寄与率

80・90年代…米類の減少寄与率163%、171%→米が主な減少品目

01～10年…米類、植物性食品、魚介類に減少品目が分散

10～18年…肉類・乳類等の増大＞米類の減少→摂取熱量の微増へ

☆「供給純食料」（食糧需給表）での確認　図Ⅰ-2

…米の減少、小麦の横ばい、肉類の上昇

→「食品摂取熱量」での動向と符合

☆「小食化」(10年まで)と肉類等消費の増大→米消費の減少へ

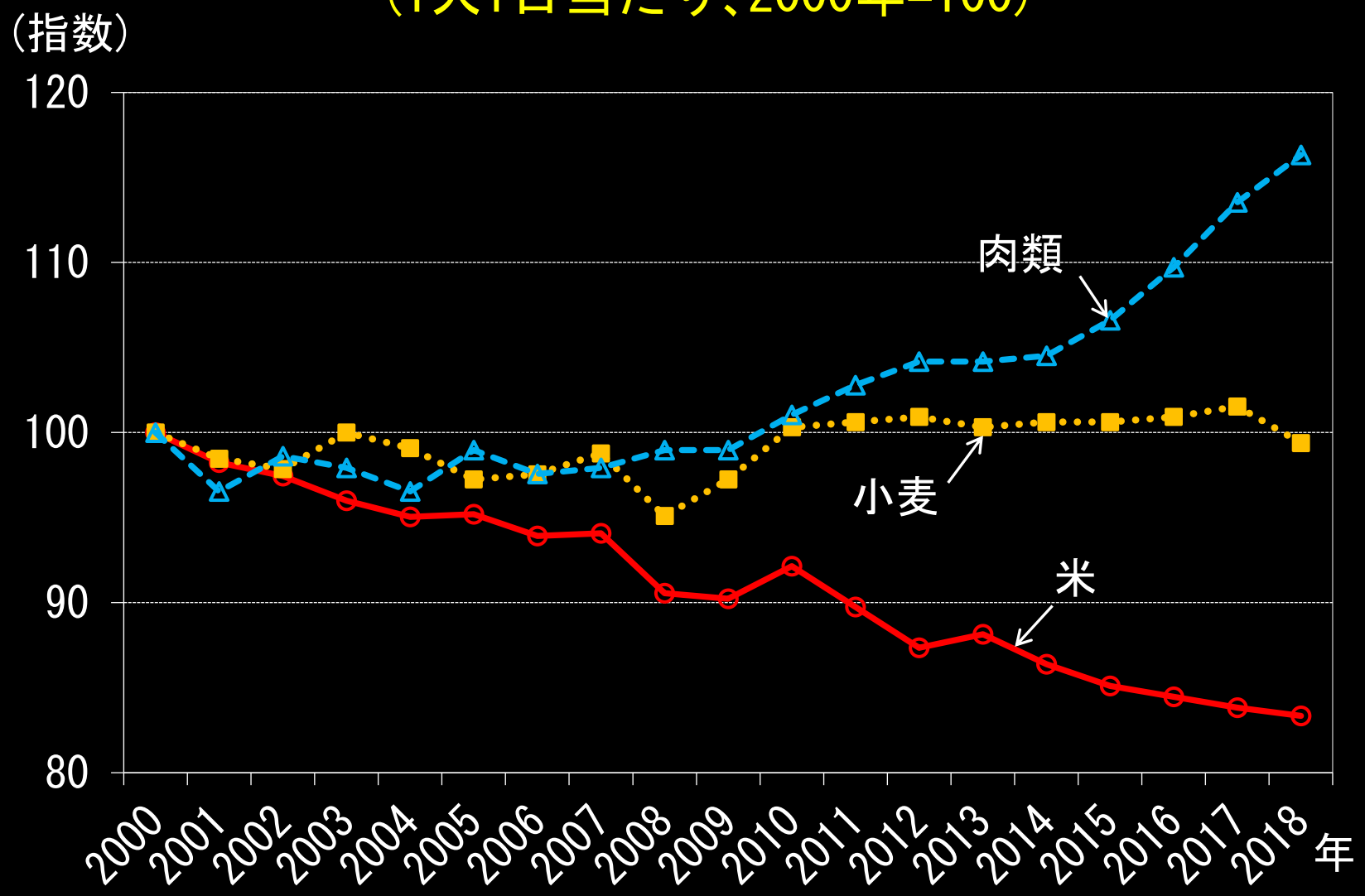
＊以上は「平均値」での動向

表Ⅰ-1　1人1日当たり食品摂取熱量の推移等

	(対比)年	摂取熱量計	動物性食品				植物性食品		
			魚介類	肉類	乳類	その他	米類	小麦類	その他
摂取熱量(kcal)	1980	2,084	119	180	79	59	793	216	639
	1990	2,026	141	164	89	77	698	216	642
	2000	1,948	138	183	92	73	564	237	661
	2001	1,954	139	156	101	67	598	216	676
	2010	1,849	111	174	89	61	558	217	639
	2018	1,900	101	228	103	71	519	216	662
期間増減(kcal)	90/80	△58	22	△16	10	18	△94	△0	2
	00/90	△78	△3	20	2	△3	△134	21	19
	10/01	△105	△28	18	△12	△7	△40	1	△37
	18/10	51	△10	54	14	10	△39	△2	23
増減寄与率(%)	90/80	100.0	△38.6	28.1	△17.8	△30.5	162.6	0.3	△4.1
	00/90	100.0	3.2	△24.9	△3.1	4.3	170.8	△26.1	△24.2
	10/01	100.0	26.8	△16.8	11.2	6.4	38.3	△1.0	35.2
	18/10	100.0	△20.1	105.4	27.0	20.9	△75.8	△3.1	45.8

注)厚生労働省「国民健康・栄養調査」より作成。2001年に食品分類区分や及び計測方法に変更があり、00年以前の数値と連続しない。

図Ⅰ-2　米・小麦等の供給純食料（指数）の推移
（1人1日当たり、2000年=100）



注）「食料需給表」より作成。

３．中高年世代で米食の減少が大

◎年齢階層別の米消費の動向　→図Ⅰ-3

・90年代後半…10代後半除く年齢階層で減少傾向（50・60代が大）
・2001年以降…20代以上の各年代階層で減少傾向

減少度合い…20・30代＜40代＜50代＜70歳以上＜60代

・2008年頃以降…世代間格差が拡大、20・30代と中高年世代の逆転

◎同一世代の米摂取量の推移

…01年、11年、06年、16年の対比　→図Ⅰ-4

20・30代の30・40代へ移行時＜＜40～60代の50代以上層への移行時

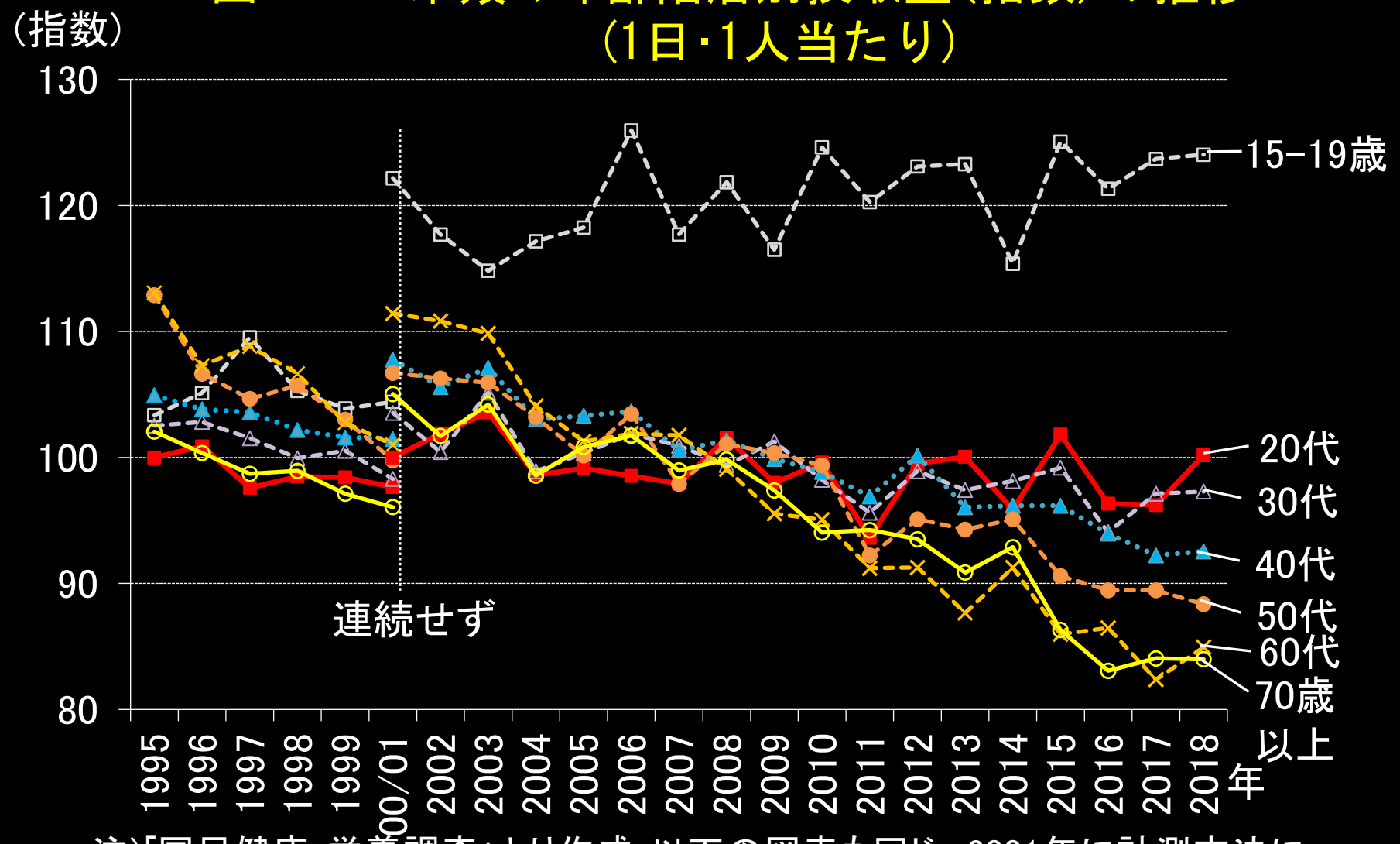
01年：20代の摂取量＜30代以上層　…やや右上がりの折れ線グラフ

06・11年：米摂取量は全階層ほぼ同じ　…平行線

16年：中高年世代ほど米類の摂取量は小　…右下がりの折れ線へ

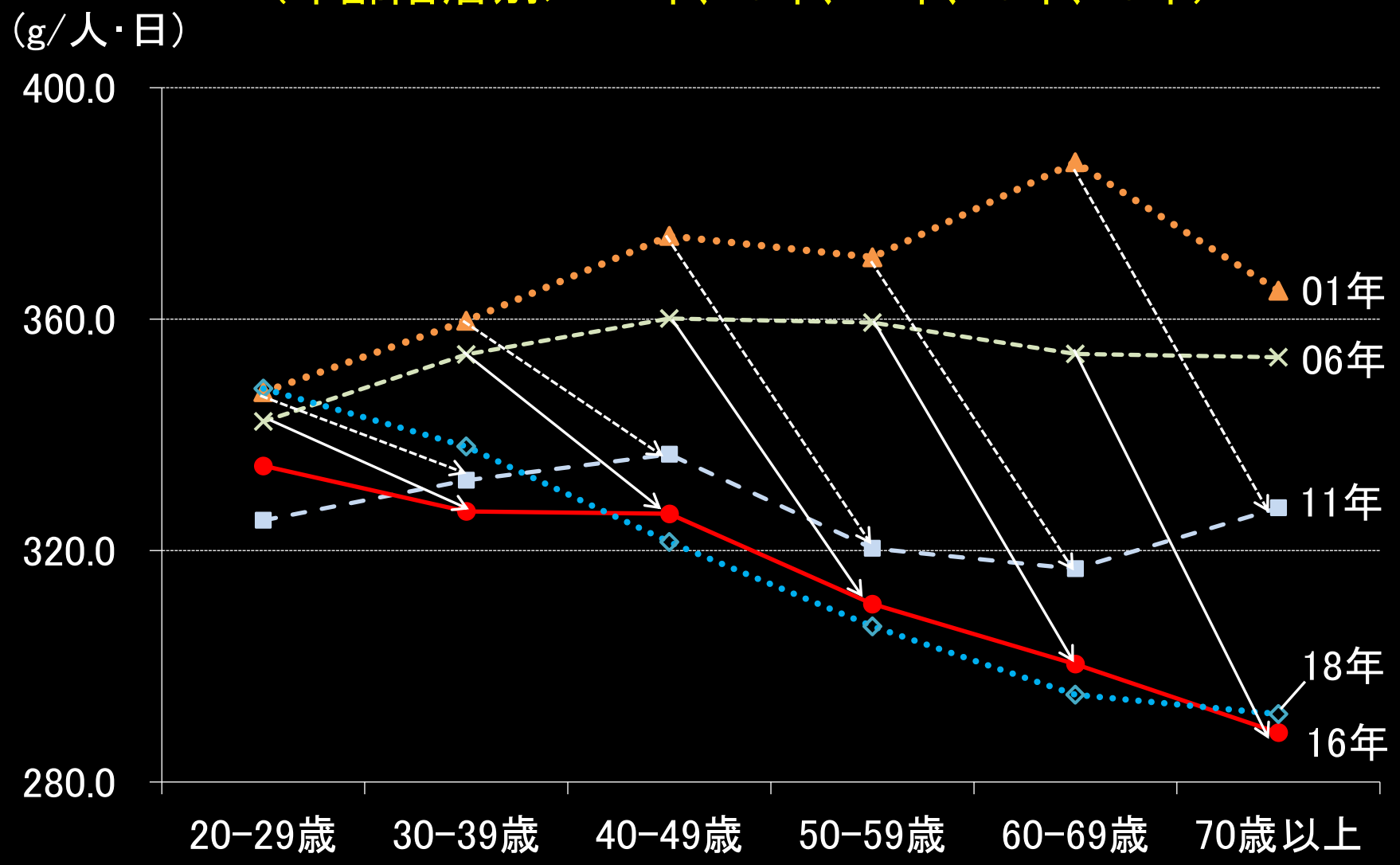
☆国内米消費の減少は中高年世代が主導！

図Ⅰ-3　米類の年齢階層別摂取量（指数）の推移（1日・1人当たり）



注）「国民健康・栄養調査」より作成。以下の図表も同じ。2001年に計測方法に変更があり、00年以前の数値と連続しない2000年までは1995年の20代=100とした場合、01年以降17年までは01年の20代=100とした指数の推移である。また、「00/01」は、00年と01年の重なりを示す。

図Ⅰ-4　米類の1人1日当たり摂取量
（年齢階層別／01年、06年、11年、16年、18年）



注)2017・18年の「70歳以上」は、「70代」と「80歳以上」の平均値である。
以下の図表も同じ。

4. 米食に対する小麦・肉類消費の影響

◎米消費減少の主体は中高年層（確認）　→表Ⅰ-2

18年の摂取熱量（平均）…米類(27.3%)、小麦類(11.6%)、肉類(12.0%)

18/01年対比…20・30代0・△6%、40代以上層の減少大(△14～△24%)

18年の摂取量…20・30代＞60代・70歳以上（→図Ⅰ-3・4の再確認）

◎小麦消費の中高年層の増大

18/01年…20・30代△12・△5%、40・50代微増、60代・70歳以上11・23%

01年以降の横ばい傾向…中高年層の増大を30代以下層の減少が相殺

他品目に比べて世代間格差が小さい（2018年）

…01年・11年・06年・16年の対比（図Ⅰ-5）→年齢階層の消費平準化

◎肉消費の中高年層の増大

全世代の肉類消費の増大傾向…魚介類の減少との代替

但し、60代・70歳以上層の顕著な増大（18/01年：67%、70%）

☆中高年層の米消費減少の直接要因

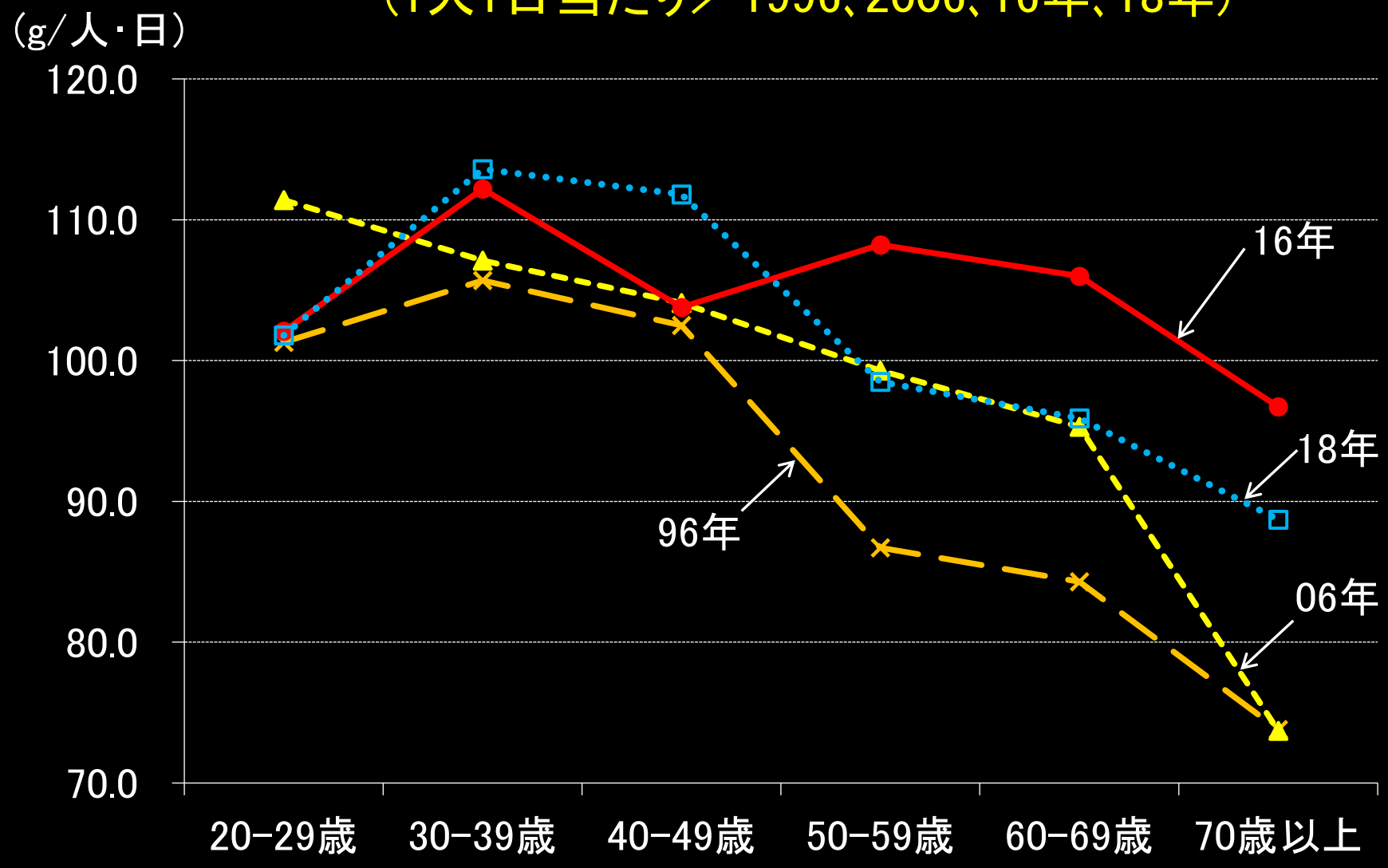
…小麦類・肉類消費の増大→米類消費の大幅な減少

表Ⅰ-2　主要食品の摂取熱量及び摂取量の年齢階層別指数

食品摂取量の時期別・年齢階層別指数								熱量/20歳以上平均、18年	
年齢層(歳)→		20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上		
18/01年対比(01年=100)	魚介類	57	68	53	56	69	80	108	摂取熱量(kcal)
	肉　類	145	133	145	159	167	170	228	
	乳　類	70	61	55	67	86	101	89	
	(穀類)	(97)	(94)	(91)	(88)	(83)	(87)	(758)	
	米　類	100	94	86	83	76	80	519	
	小麦類	88	95	105	101	111	123	221	
	豆　類	120	121	111	95	98	107	76	
	野菜類	98	96	90	86	88	101	71	
	果実類	60	69	53	46	67	95	64	
世代別対比(20代=100、18年)	魚介類	100	121	115	146	185	176	5.7	熱量構成比(%)
	肉　類	100	86	84	80	65	49	12.0	
	乳　類	100	99	95	116	138	140	4.7	
	米　類	100	97	92	88	85	84	27.3	
	小麦類	100	112	110	97	94	87	11.6	
	豆　類	100	110	112	127	144	137	4.0	
	野菜類	100	100	100	110	122	119	3.7	
	果実類	100	110	110	147	253	310	3.4	

注)18年の「70歳以上」は、「70～79歳」と「80歳以上」の平均値で算出。

図Ⅰ-5　小麦類の年齢階層別摂取量
（1人1日当たり／1996、2006、16年、18年）



５　穀類消費の男女世代別の相違

◎米類・小麦類の男女別摂取量の動向　　図Ⅰ-6

米類の減少：女性＞男性　　小麦類の増大：男性＞女性

◎米類の男女世代別の動向　　図Ⅰ-7、Ⅰ-8

男性：10代後半・20代：横ばい、30～50代：減少、60代以上：減少大

女性：減少度…40代＜50代・70歳以上＜60代　→男性より大

◎小麦類の男性・世代別の動向　　図Ⅰ-9

10代後半：100を基軸に増減変動、60代以上：17年まで顕著に増

20・40代：10年頃以降は110前後、30・50代：100前後で横ばい

◎小麦類の女性・世代別の動向　　図Ⅰ-10

60代以上の顕著な増大と20代以下の減少の相殺→図Ⅰ-6の横ばい

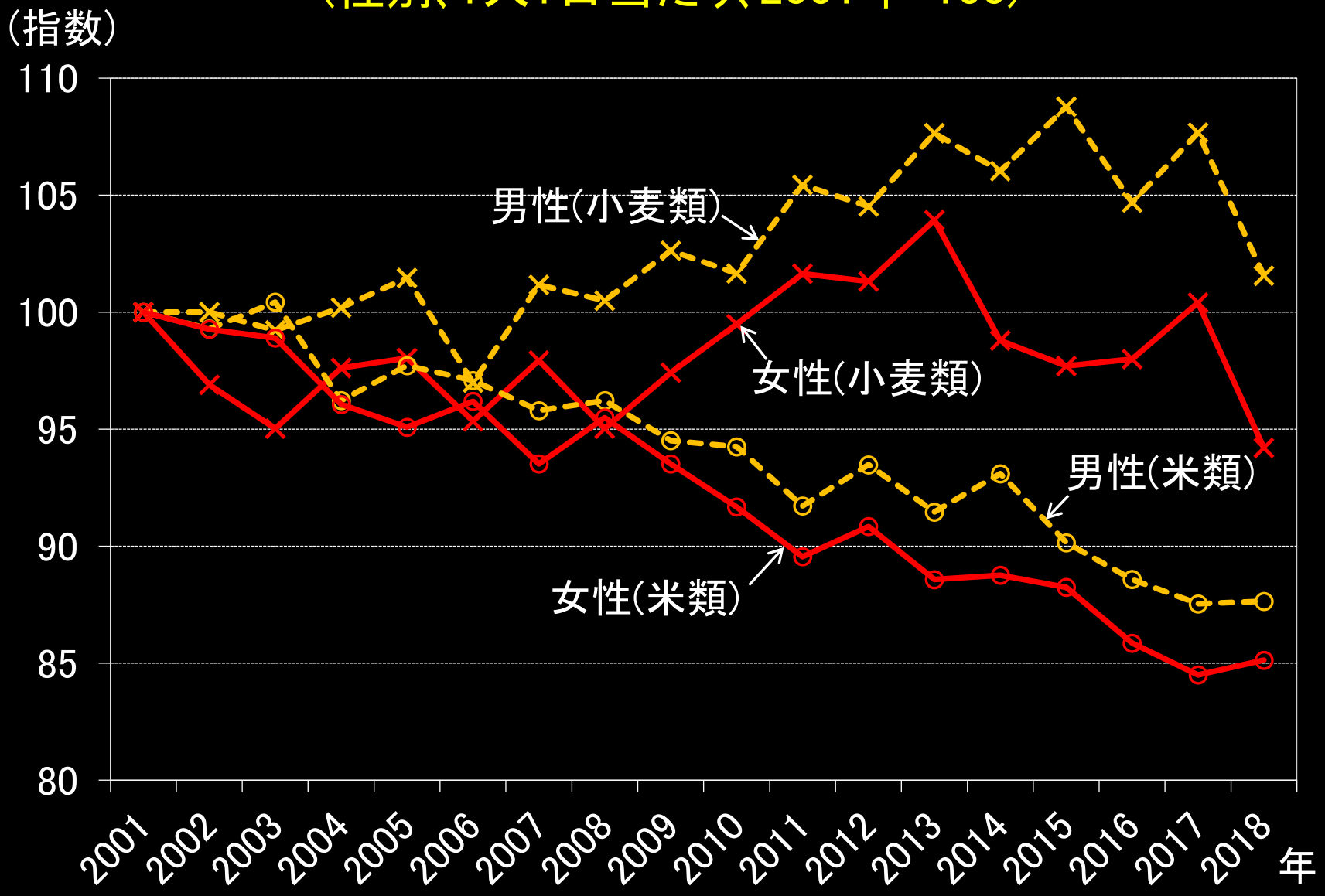
☆小麦類の消費増大の主体…男女60代以上層

17/01年…60代:男33%・女35%、70歳以上:男47%・女18%

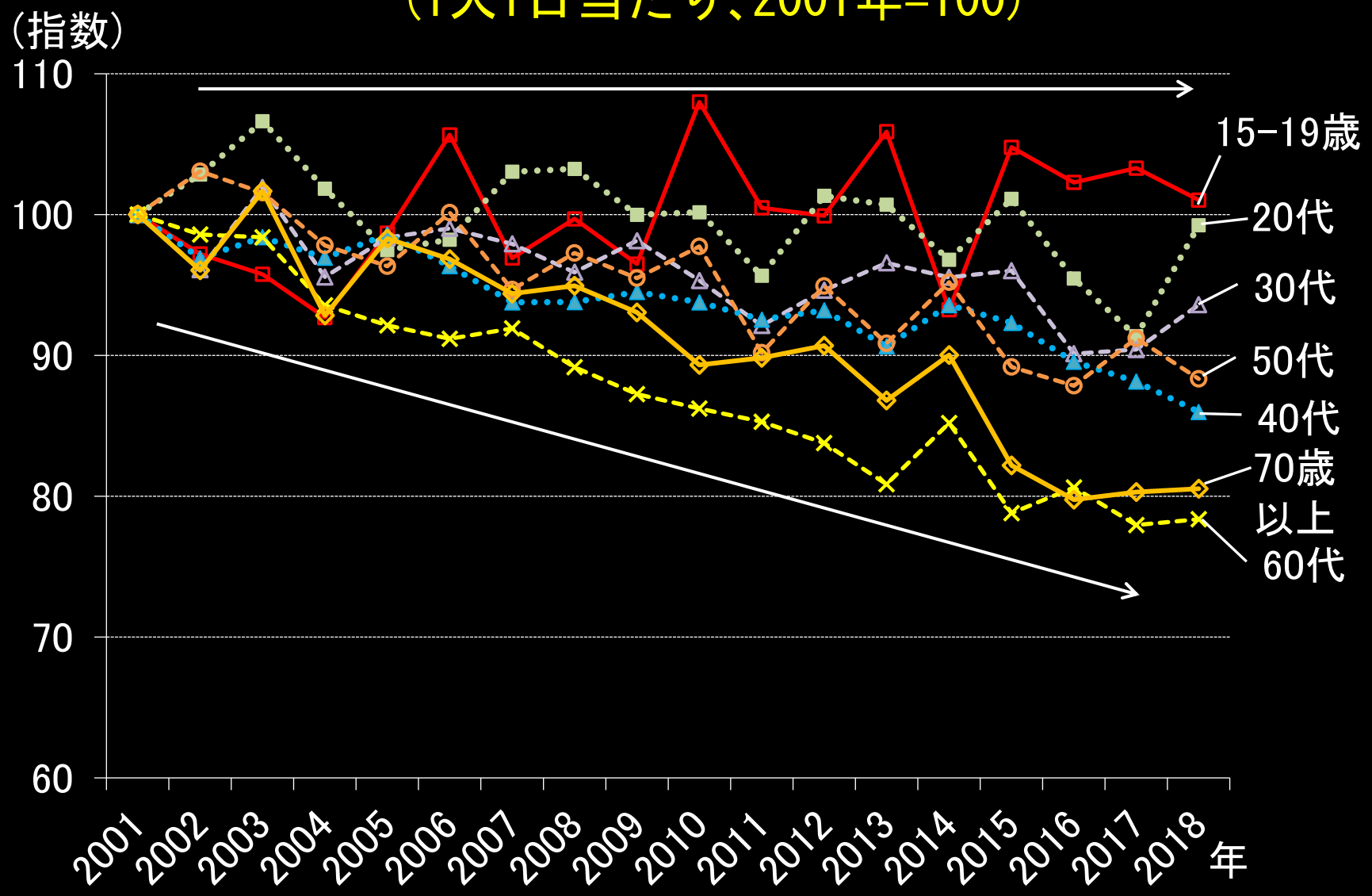
18/17年の減少…うどん・中華麺の減少傾向＋パン類・その他の減少

→小麦消費は長期的には減少か　　図Ⅰ-11

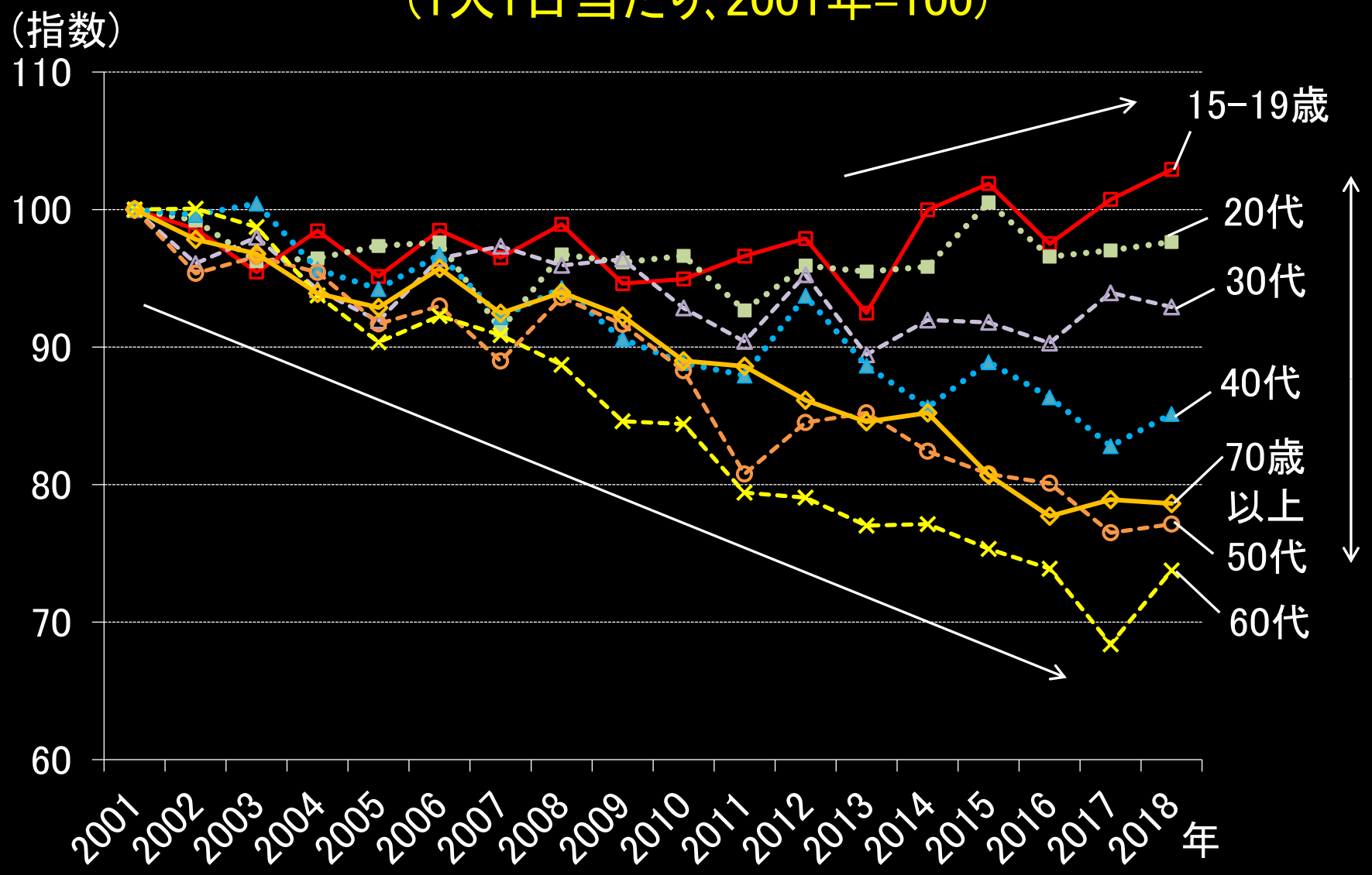
図Ⅰ-6　米類・小麦類の摂取量(指数)の推移
(性別、1人1日当たり、2001年=100)



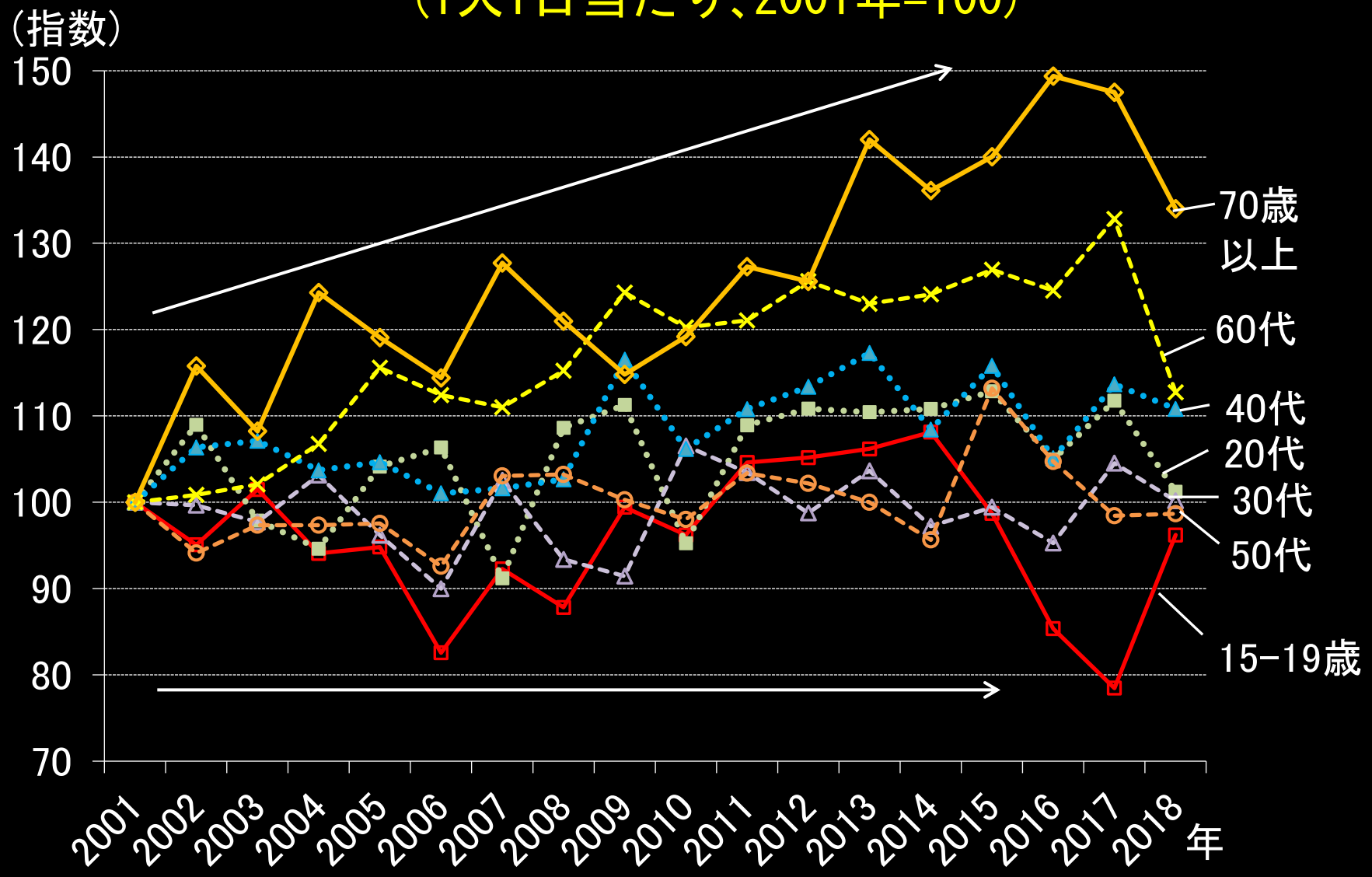
図Ⅰ-7　米類の男性世代別摂取量（指数）の推移
（1人1日当たり、2001年=100）



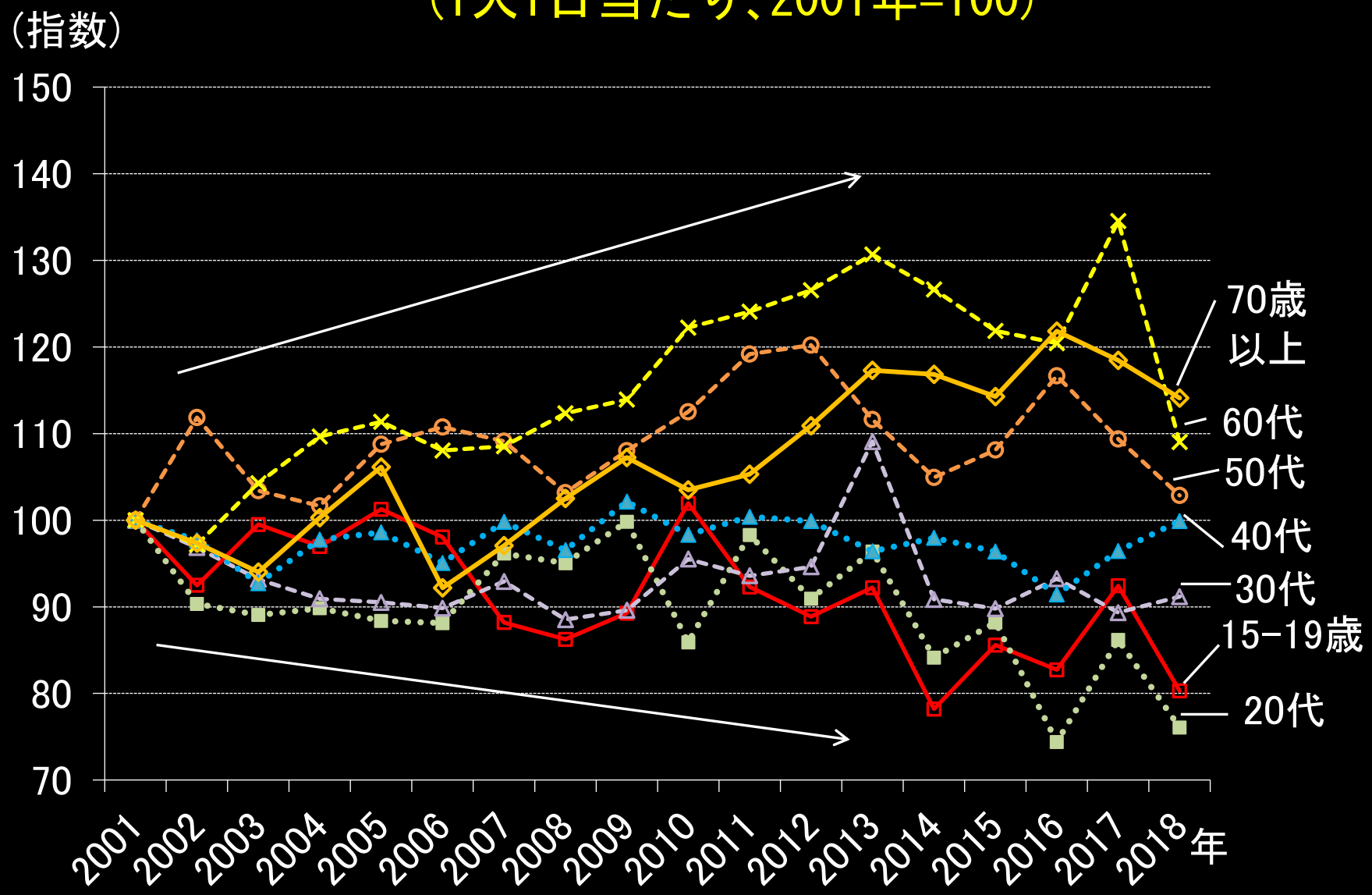
図Ⅰ-8　米類の女性世代別摂取量(指数)の推移
（1人1日当たり、2001年=100）



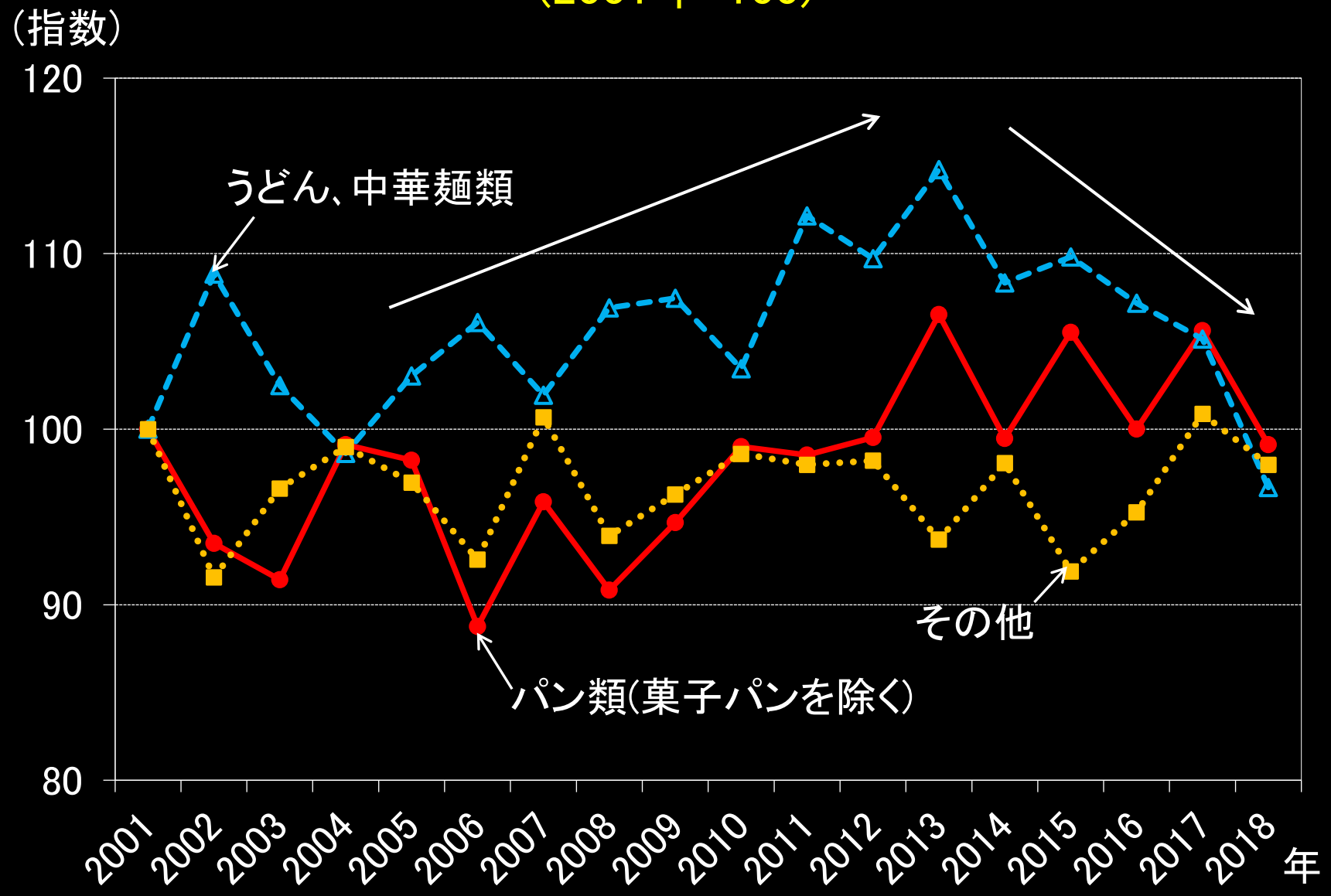
図Ⅰ-9　小麦類の男性世代別摂取量（指数）の推移
（1人1日当たり、2001年=100）



図Ⅰ-10　小麦類の女性世代別摂取量（指数）の推移
（1人1日当たり、2001年=100）



図Ⅰ-11　小麦類の細品目別摂取量(指数)の推移
(2001年=100)



６　米消費と競合関係にある食品

◎穀物摂取量の減少度は男性より女性が大　　図Ⅰ-12

…米類・小麦類の動向を反映(図Ⅰ-6)

◎食物摂取量の動向

11年までは男女同一で減少傾向→「小食化」(表Ⅰ-1)

…穀物消費の減少と対応

12年以降に乖離、15年以降…男性：横ばい、女性：増大へ

…穀物以外の食料消費の増大が影響

◎品目別摂取熱量の動向　　表Ⅰ-3

11/01年：△114kcalの減少…主に魚介類△29kcal、米類△56kcal

18/11年：59kcalの増大…肉類の増加、減少から増加の品目が多

肉類：豚肉29kcal、鶏肉16kcal／乳類：牛乳△5kcal、乳製品14kcal

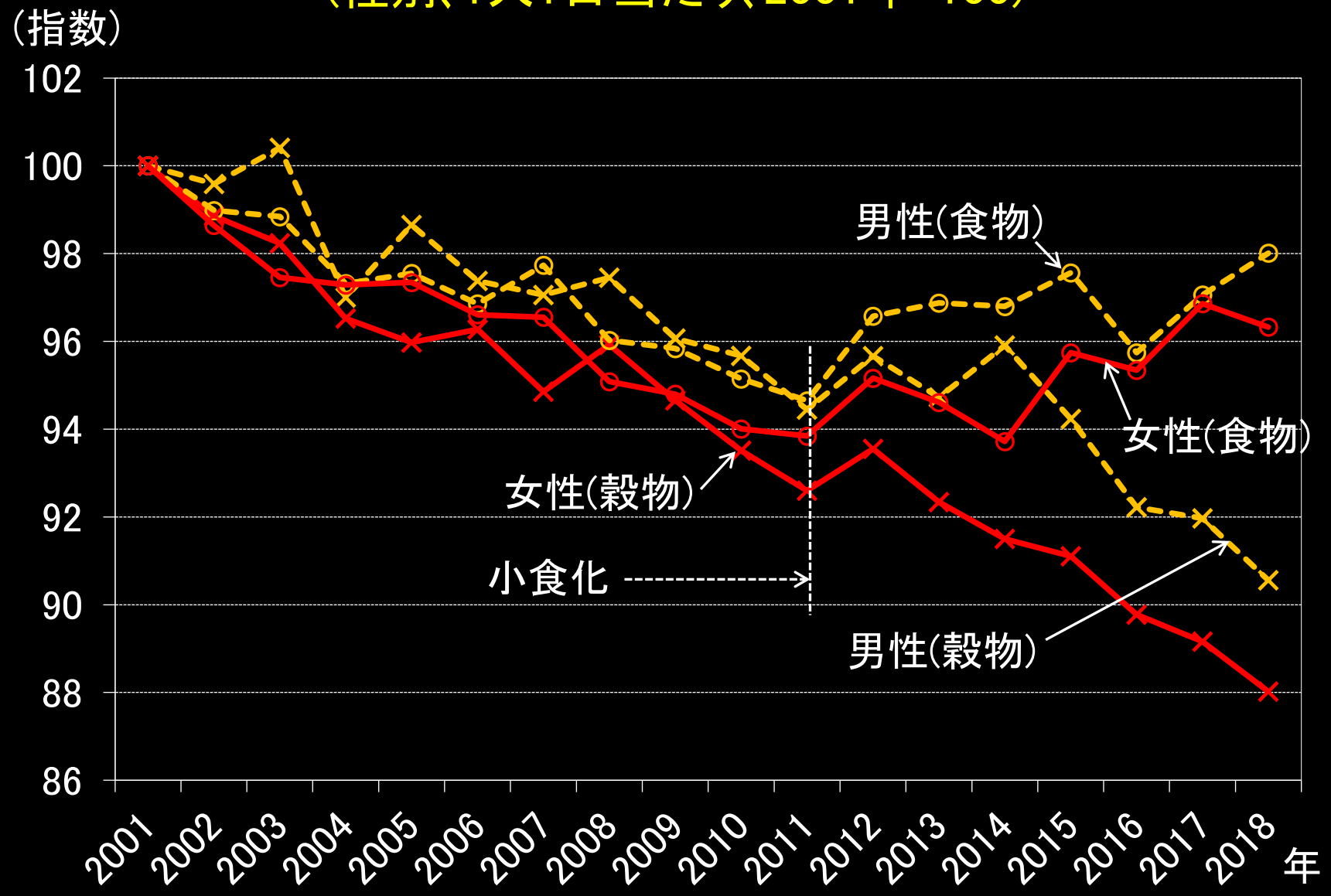
豆類：納豆8kcal　＊肉・乳類の増大は60代以上層が顕著　図Ⅰ-13

☆2011年以降の米消費の減少には、食料消費の多様化が影響

その傾向は60代以上で顕著

＊多様化…豚・鶏肉、乳製品、納豆等

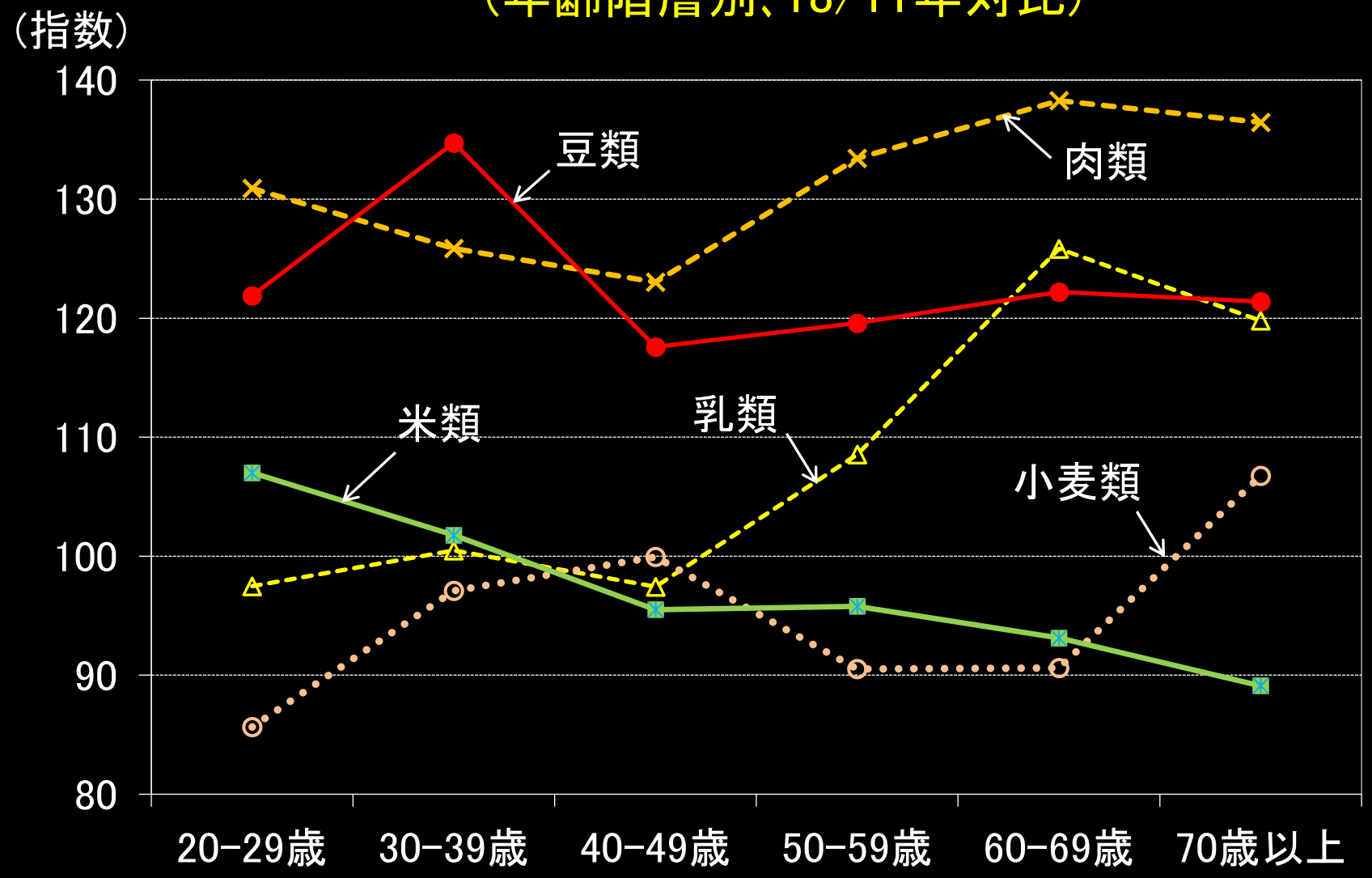
図Ⅰ-12　穀物及び食物摂取量(指数)の推移
(性別、1人1日当たり、2001年=100)



表Ⅰ-3　品目分類別食品摂取熱量の期間別増減等

品目	摂取熱量(kcal/人・日)				期間の増減(kcal)		増減寄与率(%)	
	2001年	2011年	2018年	構成比(%)	11/01年	18/11年	11/01年	18/11年
合　計	1,954	1,840	1,900	100.0	△114	59	100.0	100.0
1.魚介類	139	111	101	5.3	△29	△10	25.1	△16.7
2.肉　類	156	175	228	10.8	19	53	△16.4	88.9
(牛　肉)	(26)	(32)	(37)	(1.8)	(6)	(5)	(△5.5)	(7.7)
(豚　肉)	(65)	(70)	(99)	(4.6)	(5)	(29)	(△4.5)	(49.3)
(鶏　肉)	(31)	(34)	(50)	(2.3)	(3)	(16)	(△2.8)	(27.3)
3.卵　類	57	53	62	3.0	△4	9	3.5	15.5
4.乳　類	101	94	103	5.6	△7	9	6.1	15.0
(牛 乳)	(69)	(57)	(52)	(2.9)	(△12)	(△5)	(10.8)	(△8.8)
(乳製品)	(32)	(37)	(51)	(2.7)	(5)	(14)	(△4.7)	(23.6)
5.油脂類	100	88	97	5.3	△12	9	10.3	15.0
6.米　類	598	543	519	27.3	△56	△23	48.9	△39.2
7.小麦類	216	219	216	11.8	3	△3	△2.6	△5.7
8.豆　類	70	61	71	3.9	△9	10	7.7	16.8
9.野菜類	69	67	68	3.8	△3	1	2.3	1.7
10.果実類	75	63	61	3.4	△12	△3	10.2	△4.2
11.菓子類	88	84	88	4.7	△4	4	3.6	6.9
12.飲料類等	78	75	78	4.1	△3	3	2.6	5.4
13.調味料類等	108	110	109	5.8	2	△ 0	△2.0	△0.7
14.その他	99	98	99	5.2	△1	1	0.8	1.3

図Ⅰ-13　米・肉類等の摂取熱量(指数)の増減
(年齢階層別、18/11年対比)



7. 小括

◎国内米消費の減少率上昇とその要因

☆米消費(供給純食料)の減少度→2010年以降に再び高くなる

その要因…国内人口の減少と1人当たり消費減少率の上昇

☆米消費の減少は、他の食料消費の動向と大きく関連

但し、70代半ばから2011年頃までの米消費減少は「小食化」を反映

12年以降…肉類等の消費増が米減少に寄与

◎年齢階層間の大きな格差、米消費減少は中高齢者が主導

☆01年以降では特に中高年世代の米消費が激減　←→ 20･30代

→<u>国内の米消費減少は中高年層が主導</u>　＊男60代以上、女40代以上

背景…小麦主食品の消費増が影響大(17年まで)　＊男女60代以上

10年頃から肉類消費の急増も　←→ 20･30代

→消費品目の多様化…豚肉、鶏肉、乳製品、納豆等

◎国内の主食用米消費の展望

☆1人当たり米消費の高い減少率

→人口減少との相乗効果で米消費量の減少は加速

☆減少率も加速…30代以下層(米消費量が大)の人口が減少し

50代以上層(米消費が顕著に減少)の人口増で減少率が上昇

☆注視すべき国内米消費の世代別動向

・中高年世代の小麦食や肉類消費増大はいつまで続くか？

＊小麦類…18/17年では60代以上層で減少へ

・米飯給食世代＝30代以下層は、パン給食世代＝50代以上層の米食減少傾向に追従するか？

但し、 具体的な消費形態(内食･中食･外食)での検証 →Ⅱ

Ⅱ　米消費の中食化と世代間の特徴

1. 「二人以上世帯」の属性

◎総務省「家計調査」(二人以上世帯、品目別分類)

集計世帯…7,638　＊単身世帯…680（男女別、年齢階層別）＊2018年
集計項目…家計収支、品目分類・用途分類、数量・金額、年齢階層別
*異常値の問題、年次数値の変動大
*全国消費実態調査（5年毎、19年に「全国家計構造調査」11月公表？）
調査世帯(2014年)…二人以上世帯5万1,656、単身世帯4,696

◎「二人以上世帯」の世帯主世代別属性　表Ⅱ-1

29歳以下…乳幼児が1人、夫婦共稼ぎor妻家事専従
30代…主に小中学生が約2人、夫婦共稼ぎor妻家事専従
40代…主に中学・高校生1～2人、主に夫婦共稼ぎ
50代…同居子弟1人、主に夫婦共稼ぎ
60代…同居子弟1人or不在、主に妻が家事専従
70歳以上…主に夫婦2人の年金生活者　／共稼ぎ世帯増…30代以下

◎食料支出額の世帯別特徴

・食料支出額(／人)、エンゲル係数…中高齢者世帯が大
・食料支出額(／人)の世代間格差が拡大（19/00年対比）

表Ⅱ-1　世帯主年齢階層別の世帯属性

	属性＼世帯主年齢階層	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
2000年	世帯人員(人)	2.97	3.64	4.08	3.40	2.76	2.45
	うち18歳未満(人)	0.95	1.53	1.56	0.32	0.13	0.11
	うち65歳以上(人)	0.02	0.09	0.30	0.26	0.73	1.85
	うち有業人員(人)	1.33	1.37	1.67	2.11	1.34	0.68
	配偶女性有業率(%)	28.3	32.2	51.0	50.7	29.6	12.2
	エンゲル係数	20.4	23.8	25.1	24.5	27.8	29.7
	食料支出(百円/人)	2,105	2,261	2,629	3,178	3,630	3,490
	(29歳以下=100)	100	107	125	151	172	166
2019年	世帯人員(人)	3.15	3.74	3.69	3.16	2.62	2.39
	うち18歳未満(人)	1.18	1.73	1.47	0.45	0.07	0.05
	うち65歳以上(人)	0.02	0.03	0.10	0.16	0.94	1.86
	うち有業人員(人)	1.48	1.55	1.69	1.94	1.46	0.63
	配偶女性有業率(%)	40.6	52.6	59.3	57.0	37.9	11.7
	エンゲル係数	24.9	25.2	24.9	24.2	29.2	31.7
	食料支出(百円/人)	2,088	2,310	2,692	3,249	3,917	3,838
	(29歳以下=100)	100	111	129	156	188	184

注）総務省「家計調査(二人以上世帯)」より作成。以下の図表も同じ。

2. 中高年世帯で「中食」が顕著に増大

◎米消費の「中食・外食」割合の推定　図Ⅱ-補

「中食・外食割合」＝1人当り中食・外食米消費量／同供給純食料(%)

1人当り中食・外食米消費量＝ 同供給純食料－家庭での同米消費量

家庭での同米消費量＝購入米＋譲渡米（推計）

中食・外食割合…00年33.2% →10年40.0% →17年46.7%

＊08年の中・外食比の低下（内食の増）…リーマン不況の影響か？

→「新コロナ」の影響を示唆！？

◎食料消費支出の年齢階層別の特徴　表Ⅱ-2

・米の購入割合…年齢階層に比例して大

・主食的調理食品、米食品…年齢階層間格差は小

・外食比、食の外部化…年齢階層に逆比例

◎年齢階層別の食料消費支出の動向　表Ⅱ-3

・米…全年齢階層で約4～5割減（19/00年対比）

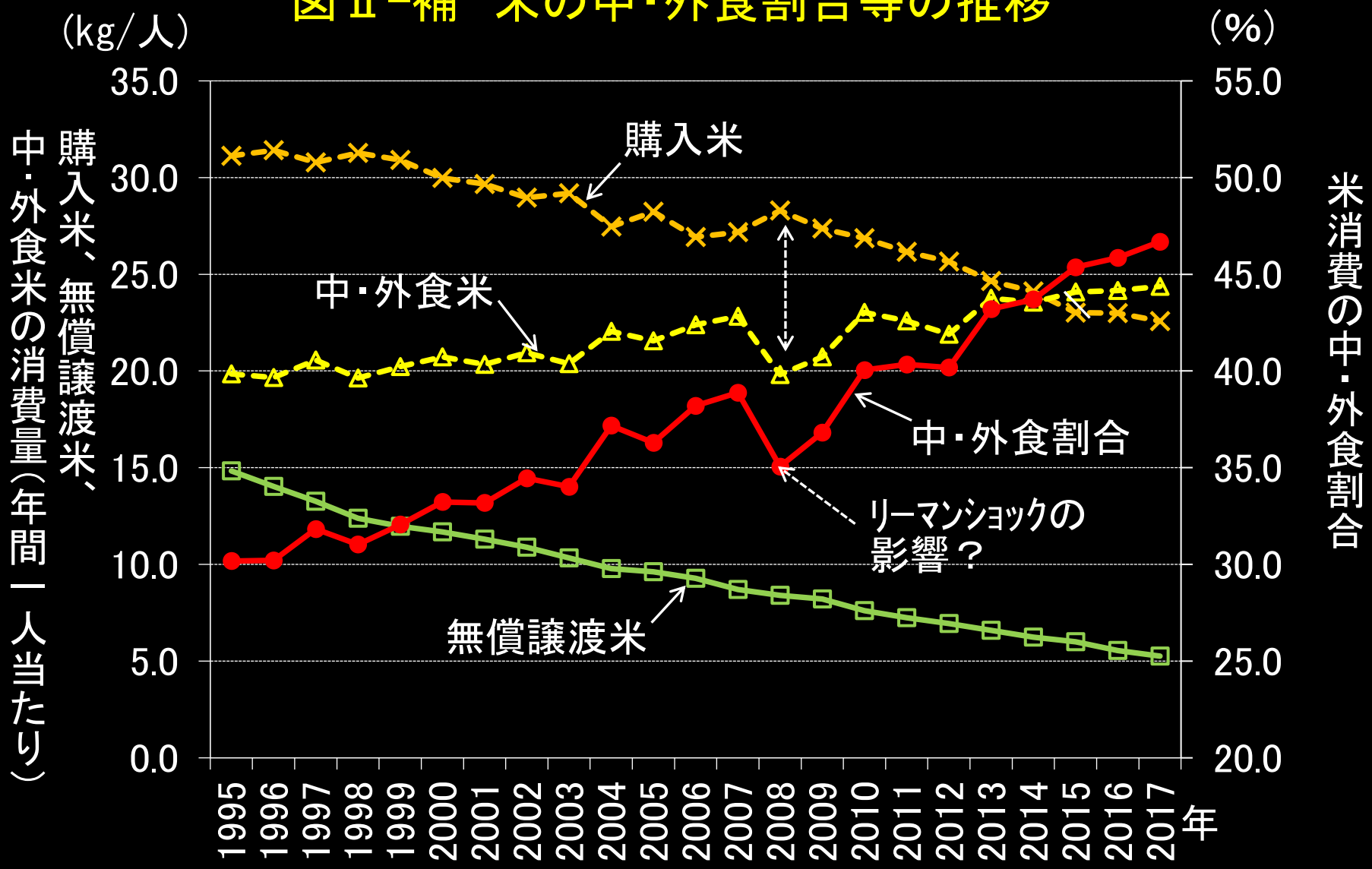
＊19/15年の上昇…米価上昇の影響

・調理食品の増大…40代以下層＜＜50代以上層

・米食品…60代・70歳以上で1.5倍前後(19/00年)の増大

特に15/10年に急増→「米購入」の急減…米食「中食化」の進展

図Ⅱ-補　米の中・外食割合等の推移



注)総務省「家計調査」、農水省「食料需給表」及び「生産者の米穀等在庫調査」より作成。無償譲渡米は推計値である。

表Ⅱ-2　世帯主年齢階層別の食料消費支出の構成(2019年)

（%）

＼世帯主年齢階層	平均	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
食料消費支出計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
穀　類(内食)	8.1	7.0	8.0	8.3	8.0	7.9	8.2
うち米	2.4	1.5	1.9	2.2	2.3	2.4	2.8
肉類・野菜等(内食)	41.0	31.5	33.2	35.3	38.0	42.6	48.0
菓子・飲料・酒類	19.3	20.2	20.4	20.1	19.4	19.8	17.9
調理食品(中食)	13.3	14.1	12.4	12.9	13.8	13.4	13.4
うち主食的調理食品	5.6	6.2	5.3	5.6	5.7	5.7	5.5
うち米食品	3.5	3.7	3.0	3.2	3.5	3.7	3.7
外　食	18.3	27.2	26.0	23.5	20.7	16.2	12.4
うち食事代	14.4	21.7	19.2	17.0	16.5	13.4	10.4
(中食・外食比)	31.6	41.3	38.4	36.3	34.5	29.6	25.8

注)「米食品」とは、弁当、すし(弁当)、おにぎり・その他をいう。「食事代」は、「外食」から喫茶代、飲酒代、学校給食を除いた支出である。

表Ⅱ-3　1人当たりの米購入等支出(指数)の推移

	年＼歳	平均	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
米購入	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	85	78	79	80	75	87	89
	2010	76	66	69	76	65	71	80
	2015	63	48	54	54	53	54	65
	2019	64	50	61	60	55	55	63
調理食品	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	106	98	95	103	109	103	110
	2010	107	89	93	98	109	112	112
	2015	124	95	98	103	126	132	127
	2019	144	122	115	118	143	157	149
米食品	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	111	104	104	106	113	105	115
	2010	113	90	102	107	111	115	114
	2015	127	93	103	106	121	133	129
	2019	141	113	109	118	134	150	146
外食	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	97	99	101	103	92	92	105
	2010	99	95	101	107	95	96	105
	2015	107	98	109	117	111	103	112
	2019	114	107	114	123	124	111	116

3. 中高年世帯の「内食」は米食からパン食へ

◎穀類の品目別購入量の年齢階層別の特徴　表Ⅱ-4

・全品目の購入量、米の構成比…年齢階層に比例して大

・パン、麺類の構成比…年齢階層に逆比例

＊支出額ベース…全世代で米(平均29.6%)＜パン(同41.0%)

◎穀類の品目別購入量の年齢階層別の動向　表Ⅱ-5

・米…全年齢階層で減少（19/00年：△29～△46%）

・パン…29歳以下、30代は05年以降、40代は10年以降に横ばい状況

50代以上は増大傾向、特に60代・70歳以上が顕著

・麺類…変動幅、年齢階層間格差が小さい

☆中高年世帯の米購入量（内食）の減少は、パンの購入増と中食化に起因する！

表Ⅱ-4　1人当たり年間の穀類品目別購入量等(2019年)

	品目	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
購入量(kg)	穀類計	29.4	35.6	43.1	48.2	59.2	61.2
	米	8.7	12.0	16.0	20.0	25.8	28.0
	パン	9.8	12.3	14.4	15.2	16.9	17.8
	麺類	9.2	9.2	10.2	10.6	13.2	12.1
	その他	1.8	2.2	2.4	2.6	3.2	3.4
指数(29歳以下=100)	穀類計	100	121	147	164	201	208
	米	100	137	184	229	296	321
	パン	100	126	148	155	174	182
	麺類	100	101	112	116	144	132
	その他	100	124	138	145	183	191
構成割合(%)	穀類計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	米	29.7	33.6	37.2	41.4	43.6	45.7
	パン	33.2	34.5	33.5	31.4	28.6	29.0
	麺類	31.2	25.9	23.7	21.9	22.3	19.8
	その他	6.0	6.1	5.6	5.3	5.4	5.5

注)「麺類」にはそばを含む。

表Ⅱ-5　穀類3品目の1人当たり購入量指数の推移

	年	平均	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
米	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	94	82	87	88	83	96	101
	2010	90	76	79	89	77	83	98
	2015	77	59	67	67	68	67	81
	2019	70	54	65	64	59	62	71
パン	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	117	127	114	119	118	125	119
	2010	123	113	115	123	122	138	130
	2015	127	109	115	120	129	140	137
	2019	130	101	108	121	130	145	149
麺類	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	108	115	102	105	109	111	109
	2010	114	99	108	108	111	120	118
	2015	109	108	100	98	110	116	112
	2019	106	102	99	94	99	117	113

４　主食的「中食」の多様化

◎「主食的調理食品」購入の年齢階層別の特徴　　表Ⅱ－6

・主食品計（支出）…おおよそ年齢階層に比例
　　←弁当、すしの世帯間格差を反映
・調理パン…50・60代が顕著　　・おにぎり…世代間格差は小さい
・構成比…すし：年齢階層に比例、その他：逆比例
　＊「その他」…冷凍食品(ﾗｻﾞﾆｱ等)、ﾚﾄﾙﾄ食品（ﾋﾟﾗﾌ等）など米食多い

◎品目別購入支出の年齢階層別の動向　　表Ⅱ－7

・弁当…50代以上層が近年急増（19/00年：1.6～1.7倍）
・すし…60代以上世帯の増大傾向
・おにぎり…全世代で増大、特に50代が顕著
・調理ﾊﾟﾝ、その他…全世代で増大、特に50代以上世帯が顕著

☆中高年世帯において、主食的「中食」の急増と多様化

　　…特におにぎり、調理パン、「その他」

表Ⅱ-6　主食的調理食品の1人当たり購入支出額等(2019年)

	品目	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
支出額(円)	主食品計	12,846	12,303	14,971	18,518	22,360	21,079
	弁　当	4,309	3,614	4,510	5,521	6,320	5,527
	す　し	1,971	1,910	2,554	4,161	6,293	7,014
	おにぎり	1,450	1,503	1,589	1,588	1,748	1,743
	調理パン	1,406	1,517	1,772	2,146	2,270	1,705
	その他	3,710	3,759	4,545	5,102	5,729	5,090
指数(29歳以下＝100)	主食品計	100	96	117	144	174	164
	弁　当	100	84	105	128	147	128
	す　し	100	97	130	211	319	356
	おにぎり	100	104	110	110	121	120
	調理パン	100	108	126	153	161	121
	その他	100	101	123	138	154	137
構成比(%)	主食品計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	弁　当	33.5	29.4	30.1	29.8	28.3	26.2
	す　し	15.3	15.5	17.1	22.5	28.1	33.3
	おにぎり	11.3	12.2	10.6	8.6	7.8	8.3
	調理パン	10.9	12.3	11.8	11.6	10.2	8.1
	その他	28.9	30.6	30.4	27.6	25.6	24.1

表Ⅱ-7　1人当たり主食的調理食品支出(指数)の推移

	年＼歳	平均	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
弁当	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	110	97	108	111	113	107	110
	2010	119	87	110	125	125	124	116
	2015	132	86	101	119	144	153	141
	2019	148	102	102	134	159	174	164
すし	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	108	115	92	94	107	103	115
	2010	104	87	80	79	96	110	109
	2015	116	89	84	80	93	119	119
	2019	127	121	92	84	102	130	132
おにぎり	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	126	116	119	129	137	109	131
	2010	127	106	123	133	129	109	127
	2015	152	134	160	150	162	131	139
	2019	175	147	175	177	191	158	154
調理パン	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	113	106	110	113	128	107	109
	2010	129	92	112	119	148	148	133
	2015	171	139	148	143	199	211	183
	2019	200	150	159	167	235	271	208
その他	2000	100	100	100	100	100	100	100
	2005	112	102	101	108	120	118	120
	2010	115	86	96	98	132	138	130
	2015	145	104	113	118	164	184	168
	2019	191	149	151	152	201	258	228

５　主食的「外食」の世代間平準化

◎「主食的外食」（食事代）の年齢階層別の特徴　　表Ⅱ－8

・学校給食…30・40代（小中学生が居る世帯）が大
・食事代/外食…年齢階層間の格差が小さい
・すし・和食、洋食・焼肉、ﾊﾝﾊﾞｰｶﾞｰの構成比…世代間格差大
・すし・和食の割合…60代以上世帯で大（3割前後）

◎すし・和食の支出割合の動向　　図Ⅱ－1

・50代以上層で低下傾向、特に70歳以上
・29歳以下では上昇傾向　　・40代は横ばい →世代間の平準化

◎洋食・焼肉の年齢階層別の動向　　図Ⅱ－2

・50代以上層で顕著に増大　　→世代間の平準化

☆外食での米食嗜好*は60代以上層で大きい

＊すし・和食の比重を米食の嗜好度と仮定

但し、「米食離れ」が進行←→若い世帯**の「米食回帰」の兆候

＊＊20歳以下、30代の外食比の高さ

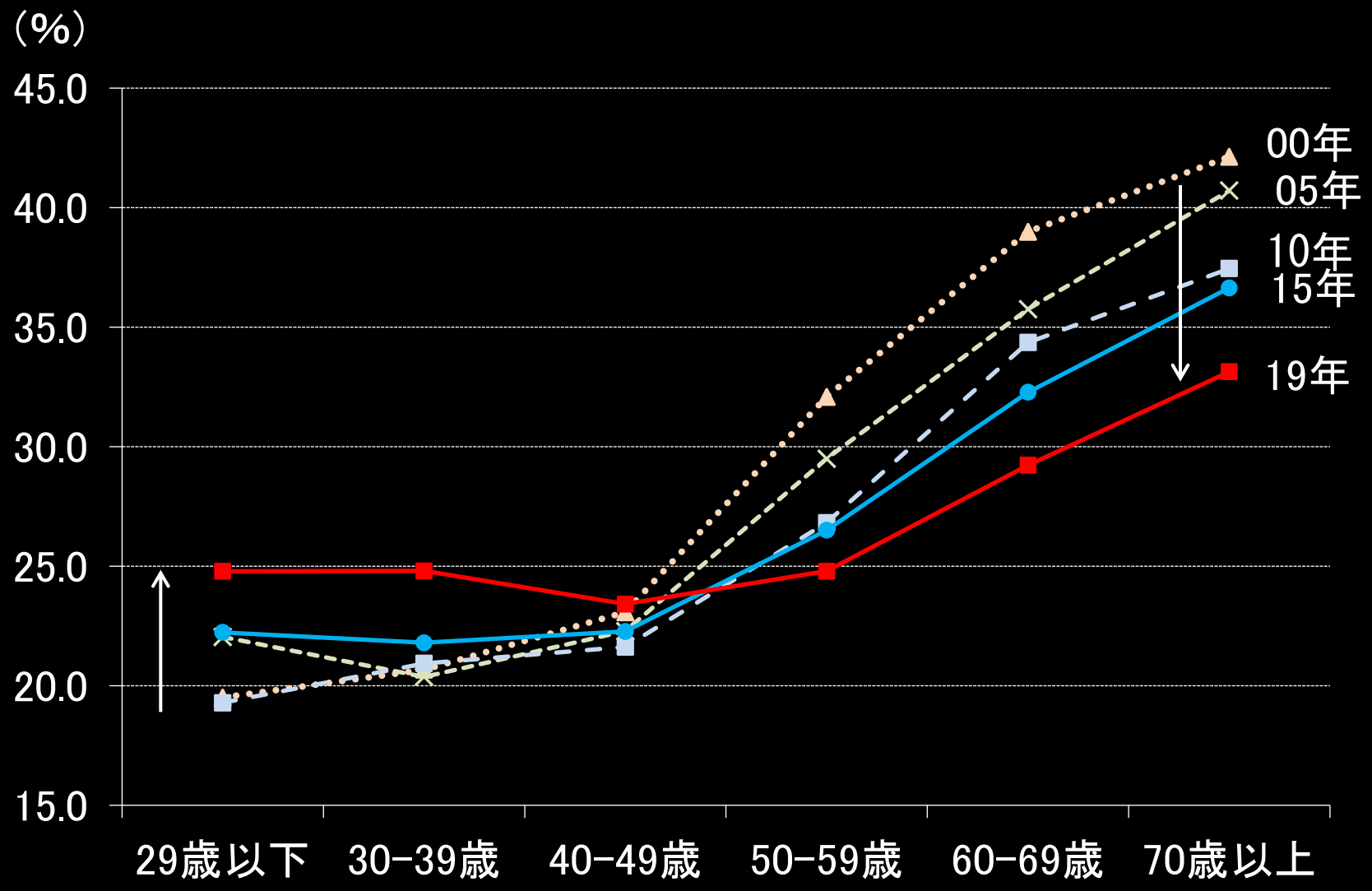
表Ⅱ-8　外食・食事代の内訳(2019年)

（%）

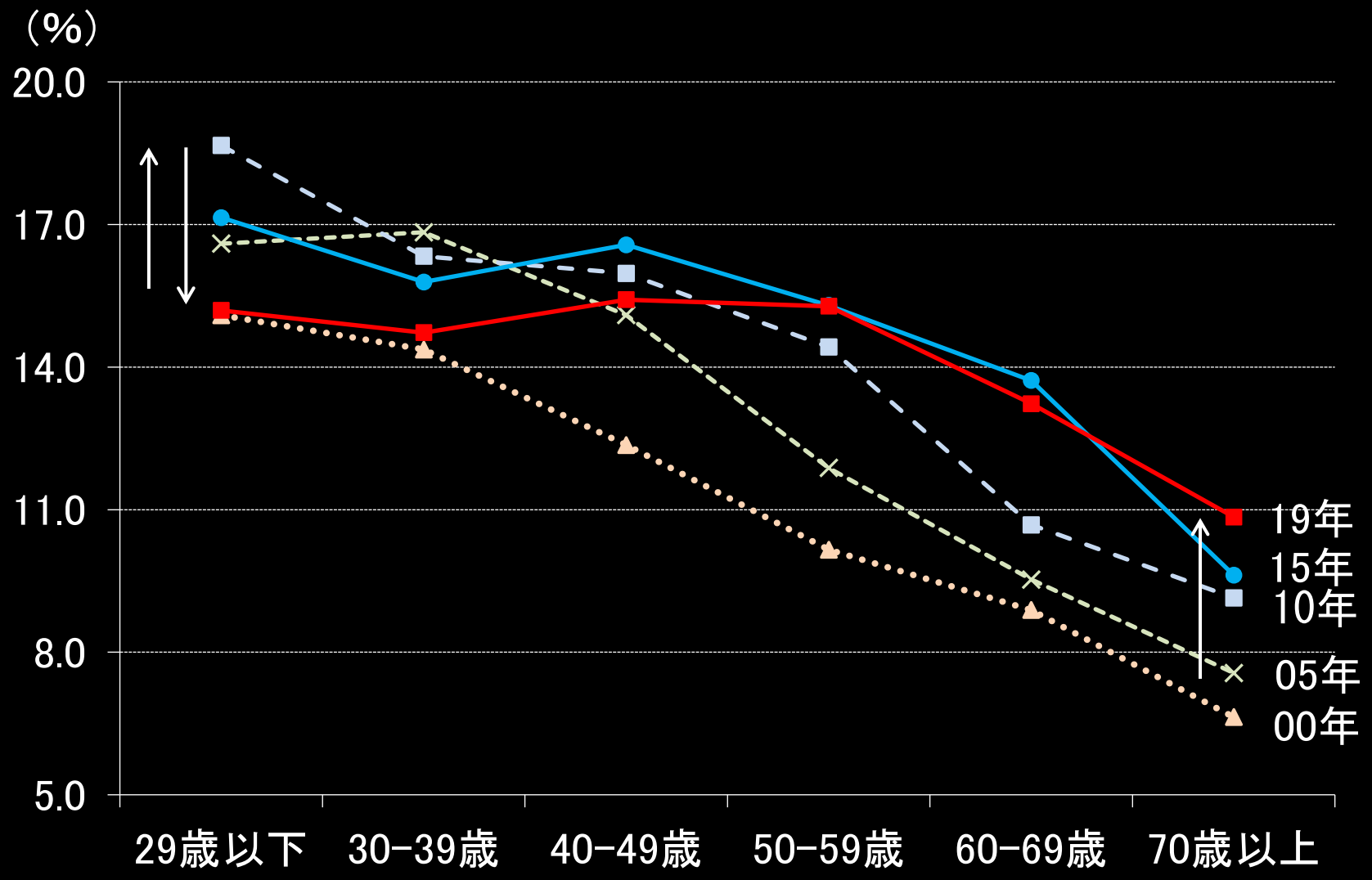
構成比	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
外食／食費支出	27.2	26.0	23.5	20.7	16.2	12.4
学校給食／外食	3.1	11.4	13.4	3.7	0.4	0.3
食 事 代／外食	79.6	73.7	72.6	79.7	82.9	83.4
食 事 代	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中華そば等麺類	12.4	12.4	11.9	11.2	11.8	11.8
すし・和食	24.8	24.8	23.4	24.8	29.2	33.1
洋食・焼肉	15.2	14.7	15.4	15.3	13.2	10.8
中 華 食	3.1	2.9	3.2	3.5	4.1	3.6
ハンバーガー	5.7	5.9	4.9	3.1	1.9	1.4
他の主食的外食	38.8	39.3	41.2	42.0	39.7	39.3

注)「中華そば等麺類」は「日本そば・うどん」「中華そば」「他の麺類外食」の合計値、「すし・和食」は「すし(外食)」「和食」の合計値、「洋食・焼肉」は「洋食」「焼肉」の合計値を示す。

図Ⅱ-1 「食事代」での「すし・和食」の支出割合



図Ⅱ-2 「食事代」での「洋食・焼肉」の支出割合



６　まとめ

◎米消費の減少と中食化は中高年世帯が主導

・中高年世帯の米食減少度が大、ﾊﾟﾝ･調理ﾊﾟﾝの増大＊単身世帯も同様

＊「中食」米食の増大＜「内食」米食の大幅減→米消費の減少大

→米類摂取量の減少、小麦類の増大と符合

◎共稼ぎと米食「中食化」との関係性？

・配偶女性有業率の上昇が最も大きい30代の場合　図Ⅱ-3

配偶女性有業率の上昇←→調理食品支出は横ばい

14年までは同上有業率と米購入量は反比例

但し、15年以降は同有業率の上昇度大でも米購入量は横ばい

・米減少世代の60代、70歳以上では　図Ⅱ-4

60代(10年以降)･･･配偶女性有業率の上昇＜調理食品の増大

70歳以上(10年以降)･･･配偶女性有業率の横ばい、調理食品の増大

☆米消費の「中食化」は共稼ぎ世帯の増加とはほぼ無関係

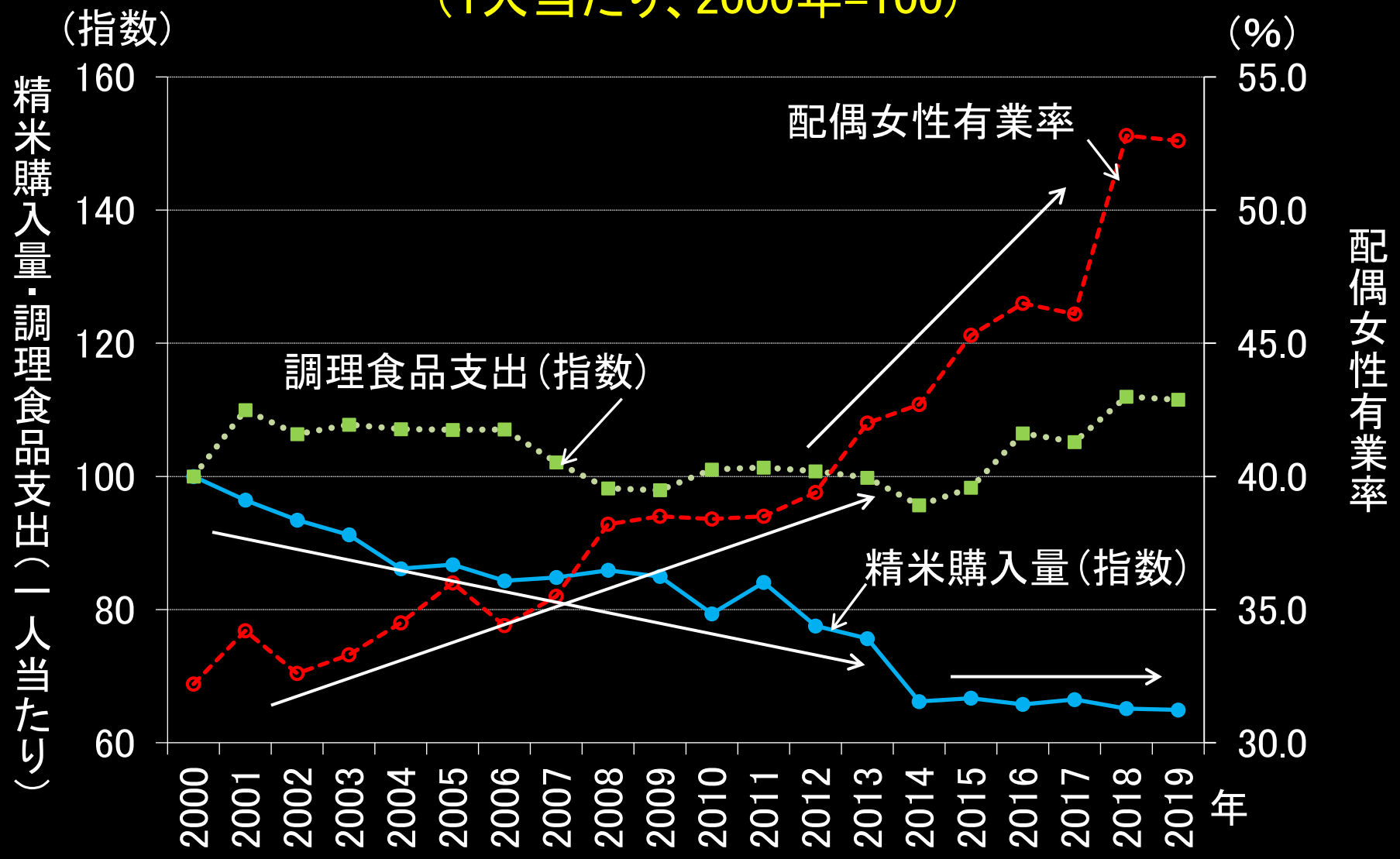
･･･「共稼ぎ」論は平均値で捉えた誤謬、<u>「食の簡便化」志向は中高齢者</u>

◎米消費の減少要因（結論）

中高年世代の食料消費の多様化（小麦食、肉食嗜好の増大）

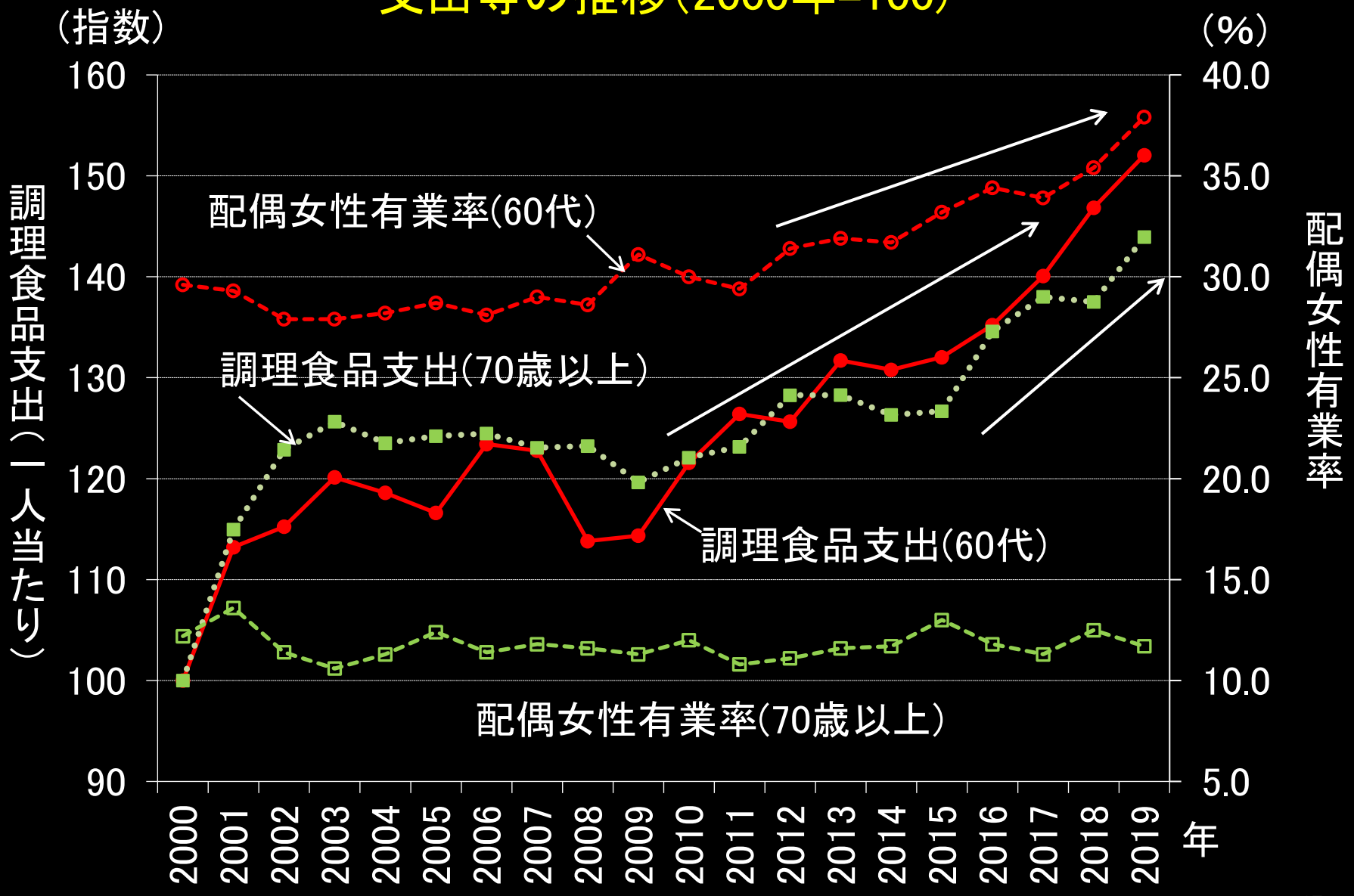
＊中高年世代の「中食化」･･･中食産業の発展（商品開発、ｺﾝﾋﾞﾆ増等）

図Ⅱ-3　世帯主30代の調理食品支出等の推移
（1人当たり、2000年=100）



注)「調理食品支出」の指数は、2015年基準の消費者物価調整済みの支出額で算出している。次図も同じ。

図Ⅱ-4　世帯主60代・70歳以上層の調理食品支出等の推移（2000年=100）



＊主な参考統計・文献

[1]農水省『食料需給表』(各年度)
[2]厚生労働省『国民健康・栄養調査』(各年度)
[3]総務省『家計調査年報』(各年度)
[4]時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博『フードシステムの経済学　第6版』医歯薬出版、2019年2月
[5]鈴木猛夫『「アメリカ小麦戦略」と日本人の食生活』藤原書店、2003年
[6]藤原辰史『給食の歴史』(岩波新書)岩波書店、2018年
[7]草苅　仁「コメの消費減少はどう進んでいるのか」『農業と経済』第83巻第12号、2017年12月、6～13頁
[8]伊藤淳史「PL480タイトルⅡをめぐる日米交渉」『農業経済研究』第92巻第2号、2020年9月、165～177頁

◎その他、現在の関心

・価格、収入と米消費の関係
　…安くなれば米食は増えるか？　＊3月末の農水省「米消費アンケート」
・新型コロナウイルスの米消費への影響
　…外食での減少部分は何に向かったのか？（中食、内食、小麦食?）

＜報告終了＞